

支店長の わがまち紹介 第72回



霞ヶ浦と筑波山

阿見町

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県阿見町です。阿見支店長が阿見町長 千葉繁氏にお話を伺いました。

阿見町は「筑波経済月報」第25号(2015年8月)第25回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本町の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

■ 交通利便性や集客性を活かした市街地形成

阿見町は、圏央道「牛久阿見」と「阿見東」の2つのインターチェンジ(IC)を有しており、物流の要衝という都市機能を果たしています。

また、町内にある3つの工業団地(福田・筑波南第一・阿見東部)には、キヤノン(株)をはじめ、(株)ツムラ、雪印メグミルク(株)、アイリスオーヤマ(株)など大企業の事業所や工場が数多く立地しています。そのため、税収だけでなく、多くの優秀な人材が集まって来ることも大きな魅力です。

さらに、阿見東IC周辺では、「あみプレミアム・アウトレット」を含む、広さ約161haの阿見吉原区画整理事業が進んでおり、約2,600人もの計画人口を見込んでいます。

このように阿見町は、交通アクセス性や集客力を活かしながら、多様なニーズに対応できる市街地の形成が進んでいます。



阿見町長 千葉 繁氏



阿見支店長 蓮田 裕直

■ “泳げる霞ヶ浦”を未来に残すために

阿見町の北東部に広がる霞ヶ浦は、2023年に完成予定の霞ヶ浦導水事業により、“泳げる霞ヶ浦”に生まれ変わると期待されています。

私が小学3年生の頃までは、霞ヶ浦で泳ぐことができました。美しい水生植物や多くの魚が泳ぐ姿に、子どもながら大変感動したことを覚えています。その記憶を胸に、私は、霞ヶ浦浄化の実現を目指すためにも政治家を志しました。

霞ヶ浦導水事業が成功すれば、霞ヶ浦の美しい水辺空間は、阿見町が誇れる“最大の宝”になると確信しています。そして、その宝を残すために様々な取り組みを行うことは、私たちの世代に与えられた使命であると感じています。

阿見町は、今年9月から開催される「いきいき茨城ゆめ国体」において、セーリング競技の会場に指定されています。これを機に、霞ヶ浦の護岸堤防の工事も行いました。

国体開催後も水上スポーツやサイクリングなどを楽しめる美しい湖にするため、霞ヶ浦沿いの市町村や茨城県などと連携し、霞ヶ浦の魅力を広くアピールしながら、認知度を高めてまいります。

■ 「認定農業者」が新規就農者を支援

阿見町では、50年以上の歴史を持つ「大玉スイカ」や日本で初めて栽培を始めた「ヤーコン」をはじめ、トウモロコシ、レンコン、イチゴなど美味しい野菜や果物が栽培されています。

都内のマルシェに出店すると、丸々1つの大玉スイカがたちまち完売するなど、大変好評をいただいています。今後も農家の方が安定的な収入を得られるよう支援していきたいと考えています。

また、最近では、若い世代の新規就農者が増加しています。阿見町では「認定農業者」による手厚いサポートを受けられるため、新規就農者の定着率が高く、今後の活動に期待を寄せています。

■ 「グリーンツーリズム」を通じた交流促進

阿見町は、美味しい野菜や果物が育つ農園での体験ツアーなどを盛り込んだ「グリーンツーリズム」にも力を入れています。

首都圏から参加した子どもは「タケノコって、竹を割ると出てくると思っていただけど、土から生えて来るんだ！」と驚きの声を上げていました。

私たちにとっては「当たり前の風景」が、都会の子どもたちにとっては「大きな刺激」となることが改めて分かりました。

現在、受け入れ農家の体制づくりが課題となっているため、今後は新たな受け入れ拠点の発掘や案内人などの人材育成、体験メニューの充実を図っていききたいと考えています。



ネギの植え付け体験を楽しむ子どもたち

■ “地域の宝”を「ふるさと納税」の返礼品に

阿見町への「ふるさと納税」は、2016年・2017年で県内ワースト1・2という結果になってしまいました。

そこで、新たに魅力的な品物を発掘するため、職員からアイデアを募集したところ、58件もの企画が提出され、大変心強く感じました。

スイーツが大好きな職員は、美味しいスイーツを返礼品にすることに加え、阿見町商工会が企画する「スイーツフェア」の情報も一緒に発信することで町に人を呼び込もうとプレゼンを行い、見事第1位を獲得しました。今年10月には、職員の案を含めた阿見町らしい返礼品を取り揃えたふるさと納税を開始する予定です。

今後も、職員が“宝探し”のような感覚で、自分たちのまちにある魅力を引き出せる庁内の風土づくりにも力を入れていきたいと考えています。



「ふるさと納税」アイデア第1位の職員と町長

また、工業団地内の企業に対しては、現在、「阿見町産」と明記した商品を詰め込んだ「阿見町オリジナルパッケージ」などの開発を促しています。完成後は返礼品として、町のプロモーションのために積極的に活用していく予定です。

■ まち全体のバランスを考えた事業を推進

阿見町は、2018年10月より、町内に住む0～18歳までの子どもたちの医療費を完全無料化しました。また、待機児童の解消に向け、保育士への助成金支給などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

2018年4月には、新小学校「あさひ小学校」が開校し、教育環境のより一層の充実を図ることができました。

学校周辺には既に子育て世代が多く住んでいるほか、町内の市街化区域においては、さらなる住宅地の開発が予定されています。

今後、さらに人口が増えれば、学校施設などの増設も検討することになります。

また、観光客や工場関係者が阿見町を訪れた際に宿泊できるホテルの誘致なども将来的に検討していく必要があります。

そのほか、圏央道の開通により、成田空港からのアクセスが向上した利点を活かす取り組みや五霞町の道の駅など県西地域の観光スポットとの差別化も図っていかねばなりません。

しかし、安心なまちづくりを進めるためには、医療や福祉などの充実も欠かすことはできません。今後もまち全体のバランスを見ながら、様々な事業に取り組んでいきたいと考えています。

■ 県内初、警察と連携し、飲酒運転を根絶

茨城県は、飲酒運転による死亡事故の発生件数・死者数が、全国最多を記録しています。

阿見町ではこのような状況を省み、全職員から飲酒運転は絶対にしないことを誓う「飲酒運転根絶に関する宣言書」を提出してもらいました。

この活動は、区長会をはじめ、工業団地に勤務する方々などにも広がり、2019年4月時点で、約15,000人が署名しました。また、この功績が認められ、今年2月には、県内で初めて警察との連携を強化する「飲酒運転根絶に関する覚書」を締結しました。

今後も“飲酒運転根絶のまち・阿見町”として、職員一同、気持ちを引き締めてまいります。

■ 民間と連携した公共交通の充実

町内の団地などでは高齢化が進み、免許返納者が増える一方、路線バスは廃線されてしまい、病院への通院や買い物に不便が生じつつあります。

このような課題を打破するため、2011年から町営のデマンドタクシー「あみまるくん」を運行しています。

しかし、予約が取りづらいとの声により調査してみると、3割以上が町内にある総合病院への通院に利用していることが分かりました。そこで、同院に相談したところ、現在、独自の送迎サービスを検討していただいております。

今後は、財政状況を勘案しつつデマンドタクシーの増便を検討するほか、筑見地区で1999年から運営されている住民ボランティアによる高齢者などの送迎システムを他地区にも普及させることを検討しています。

また、高齢者などの“買い物弱者”のために、今年度中に移動販売車の運行を開始する予定です。移動販売車と聞くと大型車を想像しますが、阿見町では軽自動車を検討しています。小回りが利き、農道も走行可能なため、農村部の方々などにも広くご利用いただけたらと考えています。

これからは、支え合いの時代です。行政サービスには限界がありますが、住民と連携・協力しながら、住みやすいまちに成長させていきます。

■ 「政策実現プラン」で6つの約束

私は、行政運営の基本理念として「未来に責任を持てる魅力あるまちづくり」を掲げ、今年4月、6つの約束(ビジョン)と24の政策(ミッション)から成り立つ「政策実現プラン」を発表しました。

各プランは4年間の中で達成時期を定めており、随時、進捗状況を確認しながら進めています。特に私の修士論文のテーマでもある「地域予算の創設による町民参加型予算の導入」では、多くの住民が税金の使い方や政治などに対して興味を抱くきっかけになればと願っています。

町長就任直後から、心を込めて住民と語り合い、全力投球で課題と向き合ってきました。今後も、子どもたちに誇れる将来像を見据え、信頼する職員とともに活動してまいります。



町長と住民が意見を交わす様子

■ 筑波銀行に期待すること

銀行は、多くの情報が集まる場所です。例えば、景気動向や企業の立地動向などの情報について、定期的に行政へ発信していただければ、私たちはその情報をもとにして、様々な町の事業に活用することができると考えています。

また、町の課題点を指摘いただく機会を設けていただくほか、企業誘致の仲立ちなど、あらゆる点で、銀行が持つ情報やネットワークを阿見町の発展のためにご提供いただけたら幸いです。

取材日：2019年4月19日

写真提供：阿見町